

1. 銅の国際市況と需給動向（2006年9月まで）

金属資源開発調査企画グループ

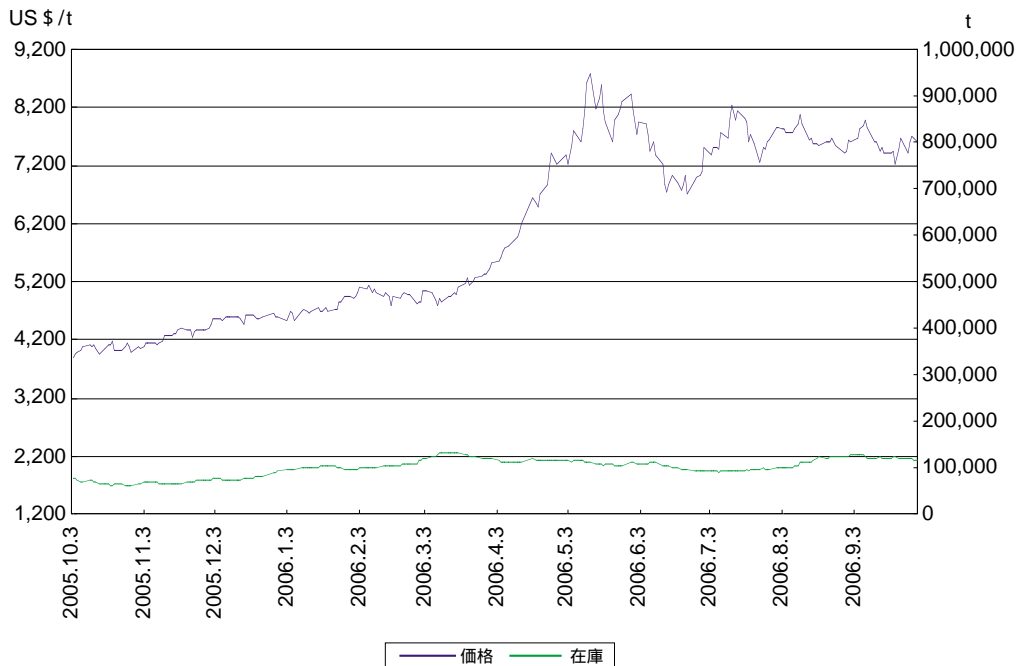
1. 8、9月の銅の国際価格は、投機資金の流入が一服したが、依然高い水準にある。
2. 1～7月の銅地金消費量は前年同月比2.9%増。一方、鉱山生産は同1.1%増、地金生産は同6.2%増。その結果、1～7月の需給バランスは、10千tの供給超過。
3. 国際銅研究会によると、2006年は239千t、2007年は176千tの供給過剰となる見込。

1. 国際価格（2006年8～9月）

銅の8、9月の国際価格は、7,000US\$/t台前半から8,000US\$/t台前半で上下を繰り返し推移し、依然高い水準にある。

7,871US\$/tでスタートした8月のLME銅価格は月上旬は乱高下を繰り返しつつも上昇傾向にあり、8月10日に8,070US\$/tに達した。その後、下降傾向に転じ、8月29日に7,421US\$/tまで下落し、その後再び上昇して7,647US\$/tで終了した。9月の銅LME価格は7,590

US\$/tでスタートした後上昇傾向にあり9月7日には7,980US\$/tに達した。その後下降傾向に転じ、9月20日に7,230US\$/tまで下落した。その後は乱高下を繰り返して9月29日に7,601US\$/tで終了した（図1-1）。



銅	2005年			2006年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫 (t)	65,025	72,600	92,225	97,600	108,900	121,925	117,725	112,175	93,575	97,450	125,350	115,575
平均価格(現物) (US\$/t)	4,060	4,269	4,577	4,734	4,982	5,103	6,388	8,046	7,198	7,712	7,696	7,602

図1-1 銅価格と銅在庫の推移

出典:国際銅研究会資料

2. 需給 (2006年1～7月)

1～7月の消費は、最大消費国中国が7.8%減となったものの、ドイツが32.4%と大幅増となったことにより、世界計では2.9%増の9,974千t。

1～7月の鉱山生産は前年同期比1.1%増の8,467千t。1～7月の鉱山の設備稼働率は80%台と低迷。

1～7月の地金生産は前年同期比6.2%増の9,984千t。うち、一次製錬は5.3%増で、二次製錬は12.4%の増。

1～7月の設備稼働率は80%台と低迷。

その結果、1～7月の需給バランスは10千tの供給超過(季節調整後は157千tの供給超過)。

LME在庫量は6月まで減少傾向であったが、7月より回復傾向にあり、8月末に125千t、7月末現在では116千tと推移しているが、依然低い水準にある。

需要

2006年1～7月の銅世界消費は前年同期比2.9%増の9,974千tであった。世界消費は4月1,439千t、5月1,487千t、6月1,435千t、7月1,429千tと推移している。国別では、最大消費国の中国が7.8%減、5位韓国が4.3%減だったものの、2位米国が1.4%増、3位ドイツが32.4%と大幅増、4位日本が6.2%増となり、全体として増加した。

供給

2006年1～7月の銅鉱山生産(金属純分、以下同様)は前年同期比で1.1%増の8,467千tであった。鉱山生産は4月1,197千t、5月1,256千t、6月1,236千t、7月1,260千tと推移している。鉱山設備稼働率は4月86.5%、5月87.7%、6月89.1%、3月87.5%と比較的低い水準で推移している。国別では、4位豪州が1.8%減であったが、最大生産国のチリが3.8%増、2位米国が1.3%増、3位ペルーが5.8%増、5位中国が13.5%増となり、全体として増加した。

2006年1～7月の地金生産は前年同期比6.2%増の

9,984千tであった。地金生産は4月1,423千t、5月1,446千t、6月1,443千t、7月1,455千tと推移している。精錬所設備稼働率は4月83.9%、5月82.4%、6月84.8%、7月82.4%と比較的低い水準で推移している。国別では、2位チリで1.7%減であったが、最大生産国の中国で20.5%増、3位日本11.5%増、4位米国5.4%増、5位ロシア1.9%増といった世界的な増加により、全体として増加した。

需給バランス

2006年1～7月の銅需給バランスは10千tの供給超過であった。4月16千t、5月41千tと供給不足であったが、6月7千t、7月26千tと供給超過に転じている。季節調整後の需給バランスでは4月18千tは供給超過であったが、5月に24千tの供給不足に転じた。その後、再び6月48千t、7月2千tと供給超過の傾向にある。LME在庫は回復傾向にあり、7月末の97千tから、8月末に125千t、9月末現在では116千tと推移している(表1-1、1-2)。

表1-1 銅の需給状況

単位:千t, 金属純分

銅	2005年												年計	1～7月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
鉱山生産量	1,203	1,087	1,239	1,196	1,255	1,187	1,205	1,270	1,243	1,280	1,307	1,407	14,878	8,371
地金生産量	1,354	1,263	1,373	1,321	1,361	1,335	1,415	1,350	1,373	1,398	1,428	1,476	16,445	9,399
一次地金生産量	1,184	1,102	1,199	1,152	1,188	1,153	1,268	1,159	1,195	1,218	1,247	1,280	14,343	8,206
二次地金生産量	170	161	174	169	173	182	147	192	178	180	181	196	2,103	1,193
消費量	1,392	1,280	1,407	1,357	1,414	1,412	1,394	1,302	1,447	1,378	1,390	1,316	16,517	9,695
需給バランス	-38	-17	-34	-36	-54	-77	21	49	-74	20	38	160	-72	-296
銅	2006年								1～7月計	前年同期比(%)				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月						
鉱山生産量	1,190	1,082	1,226	1,197	1,256	1,236	1,260	8,467	1.1					
地金生産量	1,404	1,348	1,448	1,423	1,446	1,443	1,455	9,984	6.2					
一次地金生産量	1,224	1,173	1,256	1,232	1,249	1,243	1,248	8,644	5.3					
二次地金生産量	179	175	192	191	197	199	207	1,341	12.4					
消費量	1,374	1,346	1,439	1,439	1,487	1,435	1,429	9,974	2.9					
需給バランス	29	3	8	-16	-41	7	26	10						

データは国際銅研究会のものを使用しているが、合計等は必ずしも合わない。

出典:国際銅研究会資料

表1-2 LME国別銅在庫の推移

単位:千t

国名	2005年			2006年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ベルギー	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
フランス	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
ドイツ	0.100	0.000	0.000	0.750	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
イタリア	2.000	0.000	0.000	0.000	0.325	0.000	0.325	0.850	0.325	0.850	0.150	0.000
韓国	34.075	52.400	69.900	76.600	96.025	103.700	108.300	85.850	73.825	73.925	78.450	63.175
マレーシア	0.300	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.000	0.100	0.000	0.000	0.000
オランダ	3.525	0.325	3.675	2.550	0.000	0.000	0.000	3.950	0.550	0.000	0.000	0.900
シンガポール	14.000	12.500	12.675	7.925	14.425	14.975	8.050	20.075	18.875	26.275	43.675	47.825
スペイン	5.550	3.450	3.400	3.250	0.350	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025
スウェーデン	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
アラブ	0.000	0.000	1.675	3.725	3.725	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.050
イギリス	0.175	0.000	0.000	1.075	0.325	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	3.100	3.100
米国	5.300	3.825	0.800	0.025	0.000	1.875	1.075	0.350	0.225	0.000	0.000	1.800
合計	65.025	72.600	92.225	96.000	115.275	120.675	117.550	111.100	93.500	100.575	125.400	116.875

出典:国際銅研究会資料

3. 今後の見通し (国際銅研究会予測)

需要

2005年の銅世界消費は前年比0.7%減の16,614千tであった。2006年には3.3%増の17,160千tとなる見込である。地域別にはEUが9%増と牽引し、アジアは中国の1.8%減により1.5%と低い伸びである。2007年には世界消費は4.2%増の17,884千tとなる見込である。

供給

2006年の銅鉱山生産は世界全体で前年比1.9%増の15,166千tに、2007年には6.8%増の16,204千tとなる見込である。2006年の銅地金生産は世界全体で前年比5.4%増の17,398千tに、2007年は3.8%増の18,059千tとなる見込である。2007年には前年の精鉱在庫の大きな減少により地金生産が抑制される見込である。

需給バランス

2005年には102千tの供給不足であったが、2006年には年間消費の1.4%にあたる239千tの供給超過、2007年には176千tの供給超過となる見込である。一方、関係調査機関によると、2006年の需給バランスはほぼバランスし、2007年には144千tの供給超過になるとの予測もある。

2. 鉛の国際市況と需給動向（2006年9月まで）

金属資源開発調査企画グループ

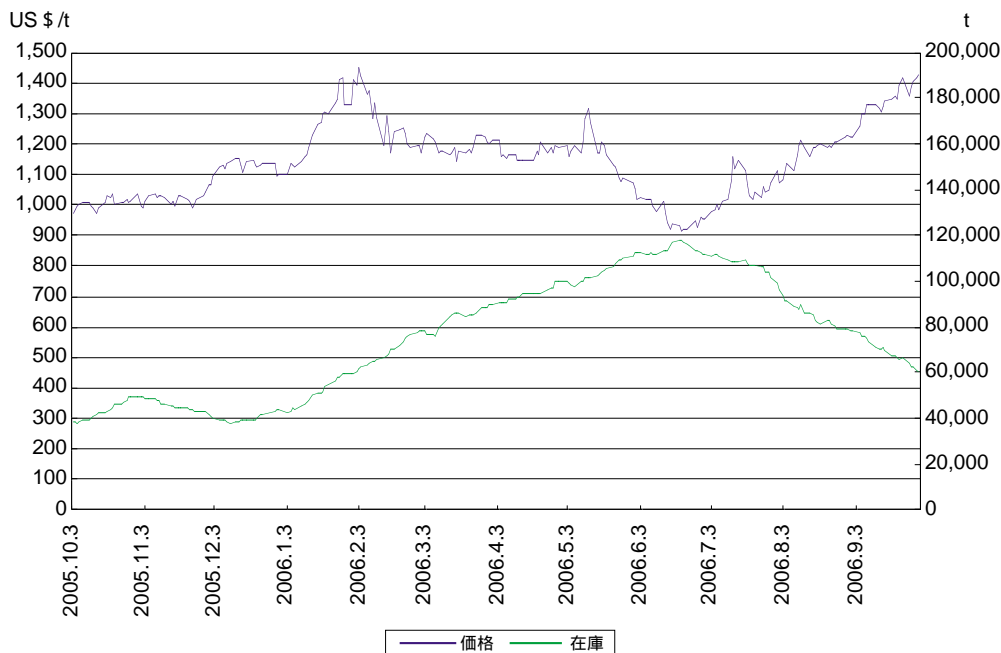
- 鉛の8、9月の国際価格は、1,000US\$/t台から1,400US\$/t台の範囲で推移した。この期間の最高値は9月29日の1,425US\$/tであった。
- 2006年1～7月の世界消費は前年同月比6.1%増。中国で同25.0%増の相変わらずの顕著な伸びを記録し、世界第1位を維持。鉱山生産は、前年同期比1.8%増。地金生産も同7.7%の増加。地金生産では、最大生産国である中国の伸び（22.7%）が大きい。
- 2006年1～7月の世界の需給バランスは、38千tの供給過剰であった。

1. 国際価格（2006年8～9月）

鉛の国際価格は、1,000US\$/tから、1,400US\$/tで推移した。8、9月を通じて上昇傾向で1,400US\$/t台で終了し、再び高い水準となった。

LME鉛価格は8月1日に1,070US\$/tでスタートした後は、小幅な上下はあったものの、8月を通じて上昇し8月31日に1,222US\$/tで終了した。9月は1,225US\$/tでスタートした後は9月中旬過ぎまで上昇

を続け、9月22日には1,414US\$/tに達した。その後は、一旦下落し9月25日に1,360US\$/tとなったが、9月29日には1,425US\$/tで終了した（図2-1）。



鉛	2005年			2006年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫 (月末) (t)	49,250	41,350	43,600	59,750	77,375	89,625	99,800	111,075	111,375	101,725	78,650	60,725
平均価格 (US\$/t)	1,005	1,018	1,124	1,256	1,277	1,192	1,170	1,167	963	1,052	1,174	1,342

図2-1 鉛価格と鉛在庫の推移

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

2. 需給 (2006年1~7月)

世界消費は6.1%増。中国で25.0%増の相変わらずの顕著な伸びを記録し、世界第1位を維持。鉱山生産は、前年同期比で1.8%増。地金生産も7.7%増で、地金生産は、中国の伸びが22.7%と大きい。
2006年1~7月の世界の需給バランスは、約38千tの供給過剰であった。7月に供給不足に転じた。
LME鉛在庫は、7月から減少傾向にあり2006年8月末は約79千t、9月末に約61千tとなった。

需要

2006年1~7月の世界消費は前年同月比で6.1%増の4,646千tであった。3位ドイツが3.8%減であったが、最大消費国の中国が25.0%と大幅増、2位米国が3.5%増、4位韓国が2.3%増、5位日本1.8%増により、全体として増加した。

2006年1~7月の地金生産は前年同期比7.7%増の4,668千tであった。3位ドイツが4.8%減、4位英国が3.4%減、5位日本が3.0%減であったが、最大生産国の中国が22.7%と大幅増、2位米国が2.0%増等により、全体として増加した。

需給バランス

2006年1~7月の需給バランスは、6月まで供給超過の傾向であったが、7月に供給不足に転じた。この期間は、米国備蓄放出を考慮すると38千tの供給超過となった。LME在庫は2006年7月末約102千t、8月末約79千t、9月末約61千t減少傾向にある(表2-1、2-2)。

供給

2006年1~7月の鉱山生産は前年同期比1.8%増の1,891千tであった。2位豪州が5.5%減、4位ペルーが2.2%減であったが、最大生産国の中国が6.4%増、3位米国1.6%増、5位メキシコが1.3%増等により、全体として増加した。

表2-1 鉛の需給状況

単位:千t

鉛	2005年													年計	1~7月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
鉱山生産量	248	242	266	272	265	283	281	281	288.1	289.0	287.8	289.6	3,292	1,857	
地金生産量	594	586	617	634	629	630	645	618	630.6	670.4	633.9	658.8	7,547	4,335	
米国備蓄放出	2.5	2.6	14.4	6.1	0.3	2.3	0.3	-6.9	3.8	3.0	3.4	4.1	56.2	29	
消費量	603	597	622	649	623	619	664	653	667.1	678.1	631.1	650.5	7,657	4,377	
需給バランス	-6.5	-8.4	9.4	-8.9	6.3	13.3	-18.7	-41.8	-32.7	-4.7	6.2	12.4	-74.1	-13.5	
鉛	2006年								1~7月計	前年同期比(%)					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月								
鉱山生産量	262.5	262.4	273.0	275.9	272.9	270.2	274.1	1,891.0	1.8						
地金生産量	661.2	662.6	668.6	669.4	690.0	677.6	638.6	4,668.0	7.7						
米国備蓄放出	4.6	1.5	3.1	4.1	1.7	1.3	0.0	16.3							
消費量	652.0	644.0	652.3	675.3	685.4	666.2	670.8	4,646.0	6.1						
需給バランス	13.8	20.1	19.4	-1.8	6.3	12.7	-32.2	38.3							

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

表2-2 LME国別鉛在庫の推移

単位:千t

国名	2005年					2006年						
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
スウェーデン	0.0	0.0	19.8	19.7	23.8	34.3	33.7	31.2	30.6	27.0	24.1	22.0
シンガポール	31.3	21.7	17.1	13.1	12.7	18.5	36.3	47.2	57.3	73.5	78.0	70.8
米国	15.1	9.7	4.9	1.3	0.1	0.1	1.3	4.9	5.3	5.3	4.6	2.7
イタリア	6.9	6.9	6.8	6.7	6.7	6.6	6.4	6.0	6.0	6.0	4.7	3.4
オランダ	0.5	0.4	0.4	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0	0
その他	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3
合計	54.1	39.0	49.3	41.4	43.6	59.8	78.0	89.8	99.6	112.2	111.7	99.2

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

3. 今後の需給見通し（国際鉛亜鉛研究会予測）

需要

鉛の世界消費は、2006年は前年比3.3%上昇して8,000千tに、2007年は前年比2.6%上昇して、8,210千tになると予測される。地域別に見ると、米国では2006年には5.7%の伸びだが、2007年には3%減となる見込である。欧州の消費は引き続き、鉛蓄電池の輸入が伸び影響があるものの、2006年には1.9%の減少、2007年には前年並みと予測される。中国では、鉛蓄電池の増産により、2006、2007年ともに10%以上の伸びを示すと予測される。

供給

2006年の鉱山生産は前年比1.3%増の3,380千t、2007年は8.8%増の3,680千tになると予測される。中国では、鉱山生産が2006年には8.5%、2007年には9.9%の伸びが見込まれる。豪州では2006年は10.9%の減少の後、2007年には13.1%の伸びとなる予測である。

地金生産は中国が2006年に14.8%、2007年に4.5%伸びると見込まれることから、全世界で2006年に6.1%、2007年に3%の伸びとなる予測である。最新の輸出入データを考慮に入れると、2006年の中国からの鉛地金の輸出は580千tと予測される。しかし、近年の中国政府による鉛への13%の輸出還付税の撤廃や、中国国内消費の激しい伸びにより、2007年には中国からの輸出は減少すると見込まれる。

需給バランス

2006年、2007年の西側諸国の需給バランスは、若干の供給超過となる見込である。2006年32千t、2007年55千tと予測される。また、関係機関の予測によると、2006年は需給がほぼバランスし、2007年には90千tの供給超過となる見込である。

3. 亜鉛の国際市況と需給動向(2006年9月まで)

金属資源開発調査企画グループ

1. 亜鉛の国際市場は、依然LME在庫減少が継続しており、需給はタイトな状況である。そのため、投機資金の流入は一服したものの、亜鉛価格は依然3,200 \$ 台 ~ 3,600 \$ 台と高い水準で推移している。
2. 2006年1 ~ 7月の世界消費は同3.3%増。鉱山生産は、前年同期比3.3%増、地金生産も同3.0%と増加傾向だが、依然として鉱石不足の状況が続く。
3. 2006年1 ~ 7月の世界の亜鉛需給バランスは、163千tの供給不足となり、供給が不足している状況が継続している。

1. 国際価格(2006年8~9月)

亜鉛の国際価格は、LME在庫の減少を受け、3,200 \$ 台から3,600 \$ 台で乱高下した。9月初めまでは上昇傾向であったが、その後は上下を繰り返し3,300 \$ 台で終了した。

3,390US\$/tでスタートした8月のLME亜鉛価格は、8月上旬は上昇傾向にあり、8月10日には8月の最高値3,450US\$/tに達した。その後は乱高下を繰り返し、8月14日には8月の最低値3,215US\$/tまで下落した後、上昇傾向に転じ8月31日に3,330US\$/tで終了した。

9月には3,441US\$/tでスタートし9月上旬まで上昇し、9月7日には9月の最高値3,672US\$/tに達した。その後は乱高下を繰り返し9月18日には9月の最低値3,215US\$/tまで下落した。その後、上昇傾向に転じ9月29日に3,360US\$/tで終了した(図3-1)。



亜鉛	2005年			2006年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫 (t)	484,350	437,800	393,500	370,800	329,675	285,100	260,700	238,775	217,150	185,175	173,500	140,375
平均価格 (US\$/t)	1,488	1,611	1,822	2,090	2,219	2,417	3,085	3,566	3,226	3,340	3,347	3,403

図3-1 亜鉛価格と在庫の推移

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

2. 需給 (2006年1～7月)

消費は前年同期比3.3%増で特に中国で消費が依然高い成長を示している。鉱山生産は3.3%増、地金生産は3.0%増と増加傾向にあるが、鉱石不足の状態が続いている。
2006年1～7月の世界の需給バランスは163千tの供給不足。
LME 亜鉛在庫は、2006年8月末に前月から12千t減少して174千tとなり、2006年9月末で140千tまで減少した。

需要

2006年1～7月の世界消費は前年同期比で3.3%増の6,294千tであった。3位日本が4.2%減、となったが、最大消費国の中国が11.6%増、2位の米国が8.4%増、4位の韓国が2.3%増、5位ドイツが1.4%増となり全体として増加した。

供給

2006年1～7月の鉱山生産は、前年同期比で、3.3%増の5,961千tであった。3位ペルーが6.5%減、5位カナダが11.2%減となったが、最大生産国の中国が14.5%増、2位豪州0.5%増、4位の米国が3.0%増となり全体として増加した。

2006年1～7月の地金生産は、前年同期比で、3.0%

増の6,109千tであった。4位日本が9.7%減、5位スペインが前年同期並みとなったが、最大生産国の中国が11.8%増、2位カナダが3.2%増、3位韓国が7.7%増となり全体として増加した。

需給バランス

2006年1～7月の需給バランス、いずれの月も供給不足であった。この期間の需給バランスは米国備蓄放出を考慮しても163千tの供給不足となった。引き続き供給不足の傾向が継続しており、LME在庫量は2006年8月に前月から12千t減少して174千tとなり、9月に入ってからさらに33千t減少し、9月29日現在140千tと依然低い水準にある(表3-1、3-2)。

表3-1 亜鉛の需給状況

単位:千t

亜鉛	2005年													年計	1～7月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
鉱山生産量	797	775	815	816	824	854	890	904	843	826	848	868	10,060	5,771	
地金生産量	830	821	880	869	868	873	790	837	846	854	846	912	10,226	5,931	
米国備蓄放出	1.3	1.2	4.2	4.2	3.8	2.2	1.8	5.1	3.5	4.0	3.6	0.3	35.2	19	
消費量	842	838	923	884	878	894	834	831	912	924	927	919	10,606	6,093	
需給バランス	-10.7	-15.8	-38.8	-10.8	-6.2	-18.8	-42.2	10.4	-62.2	-66.0	-77.4	-6.3	-344.8	-143.3	
亜鉛	2006年								1～7月計	前年同期比 (%)					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月								
鉱山生産量	825.4	814.0	857.7	875.1	880.6	855.8	852.4	5,961.0	3.3						
地金生産量	873.9	842.6	848.9	870.8	900.9	894.0	877.9	6,109.0	3.0						
米国備蓄放出	8.3	0.3	2.0	2.8	4.6	0.2	3.9	22.1	18.2						
消費量	895.7	878.8	869.8	892.6	923.1	916.0	918.0	6,294.0	3.3						
需給バランス	-13.5	-35.9	-18.9	-19.0	-17.6	-21.8	-36.2	-162.9							

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

表3-2 LME国別亜鉛在庫の推移

単位:千t

国名	2005年					2006年						
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
米国	264.2	286.8	279.2	264.3	253.1	242.6	222.2	199.1	181.1	170.3	152.0	135.3
イタリア	108.3	101.3	93.8	85.1	68.9	61.0	45.9	31.2	33.4	25.1	16.3	7.9
マレーシア	54.0	41.1	29.6	26.0	21.3	20.9	19.4	17.5	16.9	16.5	15.5	15.2
UAE	26.9	22.2	14.1	6.8	1.3	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
シンガポール	36.3	33.0	31.3	28.4	25.6	23.9	19.3	16.2	13.6	12.5	21.5	18.7
オランダ	27.0	24.3	15.9	8.6	6.0	5.5	5.2	3.5	3.0	2.7	1.1	0.1
英国	16.7	16.4	15.6	14.3	13.4	13.1	12.6	11.3	9.4	8.5	7.4	6.0
その他	0.7	4.9	4.9	3.6	4.0	3.4	2.3	1.8	1.3	1.3	1.1	1.2
合計	559.6	530.0	484.4	437.8	393.6	370.8	327.2	280.6	258.7	236.9	214.9	184.4

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

3. 今後の需給見通し（国際鉛亜鉛研究会予測）

需要

亜鉛の世界消費は、2006年は前年比3.9%増の11,060千t、2007年は2.6%増の11,350千tになると予測される。中国の消費が2006年は4.7%増、2007年は6.9%増となり世界消費の約30%と予測される。米国の消費は2005年は若干減少したが、2006年は7%の伸び、2007年に入ると前年並みと予測される。同様に欧州でも2006年は3.4%増となるものの、2007年は前年並みと予測される。

供給

2006年の亜鉛の鉱山生産は多数の鉱山の生産開始や拡張により前年比2.1%増加し、10,360千tまで達すると予測される。2007年は7.3%増加し、11,120千tと予測される。増産は、豪州、中国、ボリビア、カナダ、インド、カザフスタン、ポルトガルで見込まれる。

地金生産は2006年は前年比4.3%増、2007年は前年比4.9%と予測され、両年ともに中国で10%台の伸びが見込まれている。ヒンドスタン亜鉛のチャンデリア精錬所の170千tの生産能力の追加によりインドの地金生産は2006年に44%増となる見込である。カザフスタンと韓国でも大きな伸びが見込まれる。中国では、2006年、2007年の利用可能な精鉱の増加が、急速な精錬能力の伸びと相まって、亜鉛地金の輸入の減少につながると予測されている。旧ソ連諸国の地金生産が伸びることから、この地域から輸出が増加する見込である。

需給バランス

需給バランスは、2006年、2007年を通じて供給不足と予測される。2006年の不足は354千tで2007年には不足が緩和し154千tとなる見込である。また、関係機関の予測によると、2006年には343千tの供給不足、2007年には10千tの供給過剰となる見込である。

4. ニッケルの国際市況と需給動向(2006年9月まで)

希少金属備蓄グループ

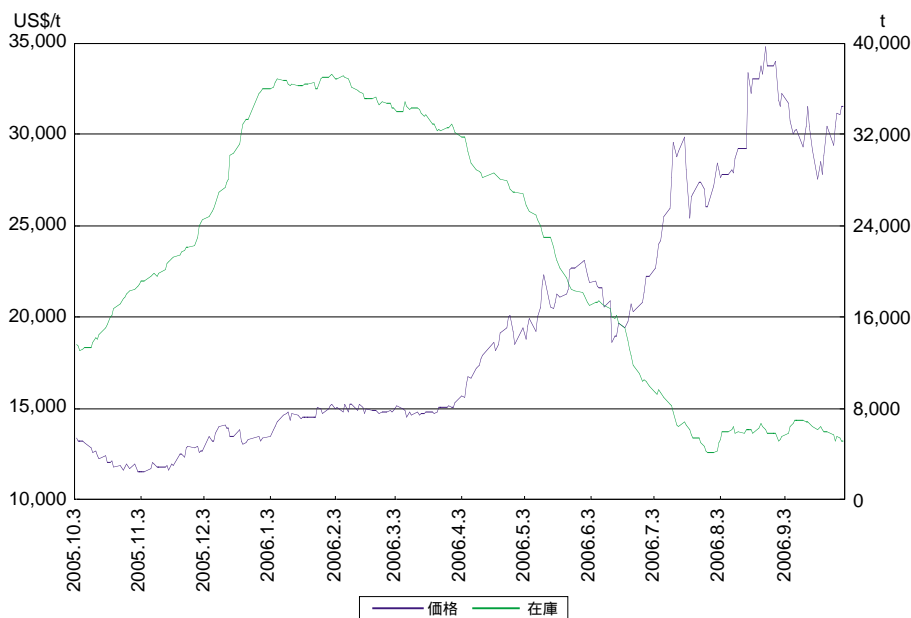
1. ニッケルの国際価格は、鉱山のストライキに伴う供給懸念から投機筋の買いが集まりさらに高騰し、8月下旬34,750\$の史上最高値をつけ、その後、調整局面もあったが30,000\$前後で推移し、9月末日現在31,500\$。
2. 2006年1～7月の需給バランスは、11.8千tの供給不足。LME在庫量は2006年7月下旬4,128tまで減少し、9月末時点で5,124t。
3. 国際ニッケル研究会によると、2006年のニッケル需給バランスは約2.8万tの供給過剰との予測。一方、業界紙等によると、依然としてステンレスをはじめとする需要は旺盛であり、今後も需給はタイトとの見方が強い。

1. 国際価格(2006年8～9月)

ニッケルの国際価格は、8月に入っても高値で推移し、鉱山のストライキに伴う供給懸念から投機筋の買いが集まり8月下旬にはさらに高騰し、34,750\$の史上最高値をつけた。9月に入り、一時は調整局面もあったものの、堅調な需要と在庫の低水準を材料に31,000\$台に回復、9月末日現在31,500\$。

ニッケル国際価格は、8月に入っても28,000\$前後の高値で推移し、インコ社ヴォイジーズベイ鉱山のストライキに伴う供給懸念から投機筋の買いが集まり、8月中旬には33,000\$台へと高騰、8月24日には34,750\$の史上最高値を更新、その後も堅調な需要を背景に33,000\$前後の最高値圏で推移した。8月末にはLMEの

ニッケル相場への規制措置などもあり31,000\$台となったが、9月に入っても30,000\$台の高値圏で推移した。9月中旬には急騰の反動から調整局面となり27,000\$台をつけたが、その後は、依然として堅調な需要と在庫の低水準を材料に31,000\$台へと回復、9月末日現在31,500\$となっている(図4-1)。



ニッケル	2005年			2006年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫 (t)	18,420	23,964	36,042	37,152	34,728	32,100	26,928	17,898	9,990	4,158	5,358	5,124
平均価格 (US\$/t)	12,403	12,116	13,429	14,555	14,979	14,897	17,942	21,077	20,755	26,586	30,744	30,131

図4-1 ニッケル価格と在庫の推移

出典：国際ニッケル研究会

2. 需給 (2006年1～7月)

2006年1～7月の鉱石生産は8.2% (65.0千t)の増。一次地金生産は2.3% (17.2千t)の増。消費は5.1% (37.4千t)の増。

2006年1～7月の需給バランスは、11.8千tの供給不足。

LME在庫は2006年2月より減少傾向に転じ、7月下旬4,128tまで減少。その後は回復傾向にあったが、9月末時点で5,124t。

需要

2006年1～7月のニッケル消費は777.0千t (金属純分、以下同様)で、前年同期比5.1% (37.4千t)の増となった。消費量第1位の中国は15.2% (16.5千t)の増、第3位の米国は9.1% (7.2千t)の増、第4位ドイツは3.9% (2.2千t)の増であったが、第2位日本は3.2% (3.5千t)の減、第5位韓国は6.7% (4.0千t)の減であった。

供給

2006年1～7月のニッケル鉱石生産は853.5千tで、前年同期比8.2% (65.0千t)の増となった。最大生産国のロシアは2.5% (4.0千t)の増、第2位カナダは28.1% (31.3千t)の大幅増、第4位のインドネシアは20.1% (15.7千t)の増となり、第3位豪州の2.0% (2.3千t)の減、第5位ニューカレドニアの10.7% (7.1千t)

の減を補った。2006年1～7月の一次ニッケル地金生産は765.2千tで、前年同期比2.3% (17.2千t)の増となった。最大生産国ロシアは2.8% (4.3千t)の微増、第3位カナダは9.9% (8.0千t)の増、第4位中国は16.1% (9.1千t)の増となり、第2位日本の1.5% (1.4千t)の減、第5位豪州の14.8% (11.3千t)の減を補った。

需給バランス

2006年1～7月の需給バランスは、11.8千tの供給不足となっている。

ニッケルの金属取引所在庫は、2006年1月末時点では37,000t台であったが、2月中旬より減少傾向へと転じ、7月下旬4,128tにまで減少した。その後は回復傾向となり5,000t～7,000t程度で推移したが、9月末時点で5,124tとなっている (表4-1、4-2)。

表4-1 ニッケルの需給状況

単位:千t、金属純分

ニッケル	2005年												1～12月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
鉱山生産量	107.8	109.0	117.8	112.1	111.9	119.3	110.6	112.4	119.2	118.4	118.1	116.8	1,373.5
一次地金生産量	109.5	104.1	111.1	105.9	111.1	103.9	102.4	105.8	103.4	106.2	106.4	112.2	1,282.0
消費量	111.0	105.7	106.8	106.8	107.8	104.6	96.8	94.2	102.6	102.1	103.3	102.9	1,244.6
需給バランス	-1.5	-1.6	4.3	-0.9	3.3	-0.7	5.6	11.6	0.8	4.1	3.1	9.3	37.4
ニッケル	2006年								1～7月計	前年同期比 (%)			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月						
鉱山生産量	121.5	120.3	124.5	126.7	121.3	118.3	120.9	853.5	8.2				
一次地金生産量	113.4	106.4	111.3	112.3	112.1	104.1	105.5	765.2	2.3				
消費量	109.3	105.6	111.0	113.1	112.7	114.4	110.9	777.0	5.1				
需給バランス	4.1	0.8	0.3	-0.8	-0.6	-10.3	-5.4	-11.8					

出典:国際ニッケル研究会

表4-2 LME国別ニッケル在庫の推移 (2005年9月～2006年8月)

単位:t

国名	2005年				2006年							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
ベルギー		12	12	60	60	180	132	132	132	102	60	60
ドイツ			1,500	6,156	6,336	6,090	6,864	6,126	4,788	1,674	774	246
イタリア	30	30	30	54	78	42	84	108	24	36	48	30
韓国	6	288	270	252	1,146	444	696	1,440	1,206	822	1,374	834
オランダ	8,952	8,508	6,408	11,064	11,508	11,574	10,698	7,998	2,820	2,580	642	3,414
シンガポール	402	366	636	3,114	3,312	3,378	1,830	918	630	30	30	216
スウェーデン	2,850	4,548	5,094	5,424	4,986	4,308	3,708	3,468	2,646	2,112	660	18
英国	1,248	5,106	10,014	9,918	9,726	8,712	8,088	6,738	5,652	2,634	456	12
米国											114	528
合計	13,488	18,858	23,964	36,042	37,152	34,728	32,100	26,928	17,898	9,990	4,158	5,358

出典:国際ニッケル研究会

3. 今後の需給見通し

国際ニッケル研究会によると、2006年の一次ニッケル地金生産は、カナダ、インドネシア等での増産が見込まれ、前年比で6.1%増の136.4万t、ニッケル消費は、中国、ロシア等の消費拡大が見込まれ前年比で7.4%増の133.6万tで、需給バランスは約2.8万tの供給過剰としており、2005年に続き過剰状態ながら、需給はやや引き締まると予測している。

業界紙、メディア等によると、欧州などをはじめとするステンレス需要は依然極めて旺盛であり、スーパーアロイ向け需要も活発なことから、ニッケル需要は今後も堅調と見られている。一方、供給については、約2か月に及んだインコ社ヴォイジーズベイ鉱山でのストライキは終結したものの、主要鉱山での事故等に

よる減産の影響が懸念され、ニッケル需給は今後もタイトとの見方が強い。

ニッケル価格については、主要生産者のストライキは終結し、インコ社の買収問題についてもCVRDの買収で一応の決着が着き、投機的要因は一段落するものと見られる。しかし、依然として需要は極めて旺盛であり、LME在庫も5,000 tを割っていること、さらにいくつかの新規プロジェクトで開発計画が遅れているなど、中長期的な供給不安材料も挙げられることから、ニッケル価格は今後も高値で推移するとの見方が強い。一方、異常な高値が続いていることから、ユーザーのニッケル離れも進んでおり、価格急落の可能性も否定できない。